

第8期介護保険事業計画「取組と目標」に対する自己評価シート

※「介護保険事業（支援）計画の進捗管理の手引き（平成30年7月30日厚生労働省老健局介護保険計画課）」の自己評価シートをもとに作成

第8期介護保険事業計画に記載の内容				R5年度（年度末実績）		
区分	現状と課題	第8期における具体的な取組	目標 （事業内容、指標等）	実施内容	自己評価	課題と対応策
①自立支援・介護予防・重度化防止	地域住民の有志によるグループ活動に「是非参加したい」・「参加してもよい」と答えた人が4割超、グループ活動のお世話役をしてもよいと答えた人が2割超となっていることから、通いの場を充実するためにも元気な高齢者の方が積極的に活動に参加できる環境づくりを進める必要がある。	総合事業の住民主体によるサービス（B型）の創出	実施箇所数 R3：0 R4：0 R5：1	実施箇所数 R3：0 R4：0 R5：0 ・R5から社協に第2層SC業務を委託し、SCの増員（2名→3名）を行った。SCとは毎月1回ミーティングを行い、B型サービスの創出に向けた取組の方針を協議し、移動支援のフォーラムや地区別意見交換会の実施、山村地区における農村RMO構想への参加などの取組を進めることができたが、B型サービスの創出はできなかった。	△	（課題） 第2層・第3層協議体がない。 （解決策） 日常生活圏域の区分けを見直し、圏域の状況を分析することで圏域の特性を把握し、これを踏まえて具体的な取組を検討する。R6は、マンパワーも考慮し、モデル地区を設定し、協議体の立ち上げに向けて取り組む。
①自立支援・介護予防・重度化防止	高齢者の心身のリスクは、70歳以降、加齢と共に高まり、特に運動器機能に関するリスクが高くなっている。また、介護を受けている人の傷病においても、「筋骨格系疾患」や「変形性関節疾患」といった運動器機能低下に繋がる傷病が多くなっており、介護予防の中でも特に運動面に関する取組を推進する必要がある。	総合事業の短期集中予防サービス（C型）の創設	実施箇所数 R3：1 R4：1 R5：1	実施箇所数 R3：0 R4：0 R5：0 ・C型の創設はできなかったが、R5後期に地域包括支援センターと協議を行い、また、R6の立ち上げに向けて人員を確保できるよう、関係機関と調整を行った結果、R6から町立病院のPT派遣に繋げることができた。	△	（課題） C型立ち上げに向けた人員体制の確保 （解決策） R6において、地域包括支援センターや健康増進担当部門の関係者と協働して取組を進められるよう、チームを立ち上げ取組を進める。
①自立支援・介護予防・重度化防止	○高齢者の心身のリスクは、70歳以降、加齢と共に高まり、特に運動器機能に関するリスクが高くなっている。また、介護を受けている人の傷病においても、「筋骨格系疾患」や「変形性関節疾患」といった運動器機能低下に繋がる傷病が多くなっており、介護予防の中でも特に運動面に関する取組を推進する必要がある。 ○地域住民の有志によるグループ活動に「是非参加したい」・「参加してもよい」と答えた人が4割超、グループ活動のお世話役をしてもよいと答えた人が2割超となっていることから、通いの場を充実するためにも元気な高齢者の方が積極的に活動に参加できる環境づくりを進める必要がある。	通いの場の活動支援	通いの場（定期的に運動を行うもの）の拠点数 R3：10 R4：11 R5：12 通いの場（月1回以上開催するもの）への高齢者の参加率 R3：8.0% R4：9.0% R5：10.0% ※参加者数÷高齢者数	通いの場（定期的に運動を行うもの）の拠点数 R3：14 R4：14 R5：14 通いの場（月1回以上開催するもの）への参加率 R5：13.3% ※803（参加者数）÷6,032（R5.9末時点） ・R5から生活支援コーディネーターを増員し、地域とのかかわりを深めたことで、新たな通いの場の発掘やサロンの立上げに繋がった。	◎	拠点数及び参加者数ともに目標を達成することができた。 （課題） グループの高齢化が進み、参加者数が減少傾向にあるグループが多く、活動継続が課題である。 （解決策） 補助制度だけではなく、生活支援コーディネーターを定期的に派遣することで、活動の悩みを聞き、適切な支援を行う。（前年度継続）
①自立支援・介護予防・重度化防止	高齢者の心身のリスクは、70歳以降、加齢と共に高まり、特に運動器機能に関するリスクが高くなっている。また、介護を受けている人の傷病においても、「筋骨格系疾患」や「変形性関節疾患」といった運動器機能低下に繋がる傷病が多くなっており、介護予防の中でも特に運動面に関する取組を推進する必要がある。	リハビリテーション体制強化	リハビリテーション体制強化のための事業者協議の開催数 R3：1 R4：2 R5：2	リハビリテーション体制強化のための事業者協議の開催数 R3：0 R4：1 R5：0 ・今年度、事業者協議はできなかったが、町立病院のリハ専門職と協議した結果、R6からの専門職派遣に繋がる。	△	（課題） リハビリテーション体制強化について、関係者との協力体制の構築 （解決策） リハビリテーション専門職を配置する医療機関等への働きかけを行う。

第8期介護保険事業計画に記載の内容				R5年度（年度末実績）		
区分	現状と課題	第8期における具体的な取組	目標 （事業内容、指標等）	実施内容	自己評価	課題と対応策
①自立支援・介護予防・重度化防止	地域住民の有志によるグループ活動に「是非参加したい」・「参加してもよい」と答えた人が4割超、グループ活動のお世話役をしてもよいと答えた人が2割超となっていることから、通いの場を充実するためにも元気な高齢者の方が積極的に活動に参加できる環境づくりを進める必要がある。	介護予防リーダーの養成講座	介護予防リーダー養成講座の受講者数 R3：0 R4：10 R5：20	介護予防リーダー養成講座の受講者数 R3：0 R4：0 R5：0 ・介護予防リーダー養成講座は実施しなかったが、専門人材を活用した町主催の健康教室を行い、介護予防意識の定着を図った。	×	（課題） リーダー人材の発掘や育成方法が確立できていない。 （解決策） R6は、C型サービス（卒業後にボランティアとしての社会参加等）や正規職員として配置した専門人材と連携を図り、人材育成を図る。
①自立支援・介護予防・重度化防止	地域ケア個別会議について、事例検討が限られているため地域課題の洗い出しが不十分であり、地域ケア推進会議の開催には至っていない。	地域ケア個別会議の開催	地域ケア個別会議の開催回数 R3：12 R4：12 R5：12	地域ケア個別会議の開催回数 R3：7 R4：9 R5：6 ・開催回数は目標を下回ったが、参加者の負担軽減を図るとともに、地域課題の抽出に繋がるよう、個別会議の在り方を関係者間で協議しながら見直しを行い、開催を重ねた。	△	（課題） 個別会議の運営がまだ安定していない。 （解決策） 会議を継続することで運営の安定化を図る。
①自立支援・介護予防・重度化防止	地域ケア個別会議について、事例検討が限られているため地域課題の洗い出しが不十分であり、地域ケア推進会議の開催には至っていない。	地域ケア推進会議の開催	地域ケア推進会議の開催回数 R3：4 R4：4 R5：4	地域ケア推進会議の開催回数 R3：2 R4：3 R5：1 ・開催回数が1回となったが、町営バスのバリアフリー化に繋げることができた。	○	（課題） 開催頻度の確保 （解決策） 開催方法を定期開催とする。
②給付適正化	認定率について、町の「調整済み認定率」で見ると、全国と比べて、中・重度者（要介護3～要介護5）で低く、軽度者（要支援1～要介護2）で高くなっている。また、全国や県と比べて、高齢独居世帯や高齢夫婦世帯の割合は高く、介護保険サービスの利用率は低くなっている。特に軽度者では、利用率が低くなる傾向にあるため、要介護認定業務の適正化とともに、適切なサービス利用の促進や、介護保険サービスを利用しやすい環境の整備、住民に対する介護保険サービスの周知・広報の充実に努める必要がある。	要介護認定の適正化	現任者研修の受講率（%） R3：100 R4：100 R5：100 ※受講者数÷対象者数 （取組の内容） 認定調査に従事する調査員一人一人が同じ視点に立ち、同様の判断基準で調査が行えるよう資質向上のため、認定調査員現任者研修の受講を推進	現任者研修の受講率（%） R3：100 ※4÷4 R4：100 ※4÷4 R5：100 ※4÷4 ・調査員全員が現任者研修を受講した。	◎	（課題） 現在は経験豊富な調査員で占めており、安定した調査ができているが、今後の人材確保が課題である。 （解決策） 新任の職員でも安定した調査が可能なように、研修やシステム整備を進める。
②給付適正化	認定率について、町の「調整済み認定率」で見ると、全国と比べて、中・重度者（要介護3～要介護5）で低く、軽度者（要支援1～要介護2）で高くなっている。また、全国や県と比べて、高齢独居世帯や高齢夫婦世帯の割合は高く、介護保険サービスの利用率は低くなっている。特に軽度者では、利用率が低くなる傾向にあるため、要介護認定業務の適正化とともに、適切なサービス利用の促進や、介護保険サービスを利用しやすい環境の整備、住民に対する介護保険サービスの周知・広報の充実に努める必要がある。	ケアプランの点検	点検の実施率（%） R3：100 R4：100 R5：100 ※実施者数÷居宅介護支援事業者数 （取組の内容） ケアマネジャーが作成したケアプランが利用者の自立支援に向けた適正な計画となっているか点検するとともに、事業者への助言・指導等を行う。	点検の実施率（%） R3：100（9÷9） R4：100（8÷8） R5：0（0÷8） ・R5は、実施できなかった。	×	（課題） 事業所に依頼するケアプラン点検の準備書類が多く、事業所の負担となっているとともに、点検を行う職員もノウハウがない。 （解決策） ケアプラン点検の効率化を図り、事業所の負担軽減を進める。 包括支援センターと連携し、点検方法などのマニュアル化を進める。

第8期介護保険事業計画に記載の内容				R5年度（年度末実績）		
区分	現状と課題	第8期における具体的な取組	目標 （事業内容、指標等）	実施内容	自己評価	課題と対応策
②給付適正化	認定率について、町の「調整済み認定率」で見ると、全国と比べて、中・重度者（要介護3～要介護5）で低く、軽度者（要支援1～要介護2）で高くなっている。また、全国や県と比べて、高齢独居世帯や高齢夫婦世帯の割合は高く、介護保険サービスの利用率は低くなっている。特に軽度者では、利用率が低くなる傾向にあるため、要介護認定業務の適正化とともに、適切なサービス利用の促進や、介護保険サービスを利用しやすい環境の整備、住民に対する介護保険サービスの周知・広報の充実に努める必要がある。	住宅改修の点検	住宅改修の事前審査率（％） R3：100 R4：100 R5：100 （取組の内容） 住宅改修工事を行うに当たって、事前審査により改修が受給者の状態に合ったものであるか審査をし、書面や聞き取りによる審査が困難な場合は、住宅の実地確認による審査や施工状況の点検を行う。	住宅改修の事前審査率（％） R3：100 R4：100 R5：100 ・前年度同様、住宅改修は、全件を事前審査し、目標を達成した。その際、書類上で疑義が生じた場合は現地調査をすることとしているが、現地調査が必要なケースはなかった。	○	（課 題） 住宅改修へのリハビリ専門職の関わりがない。（R3までは地域包括支援センターの理学療法士を配置していた。） （解決策） 専門職から助言を受けられる機会が得られるよう、理学療法士の配置を行う。
②給付適正化	認定率について、町の「調整済み認定率」で見ると、全国と比べて、中・重度者（要介護3～要介護5）で低く、軽度者（要支援1～要介護2）で高くなっている。また、全国や県と比べて、高齢独居世帯や高齢夫婦世帯の割合は高く、介護保険サービスの利用率は低くなっている。特に軽度者では、利用率が低くなる傾向にあるため、要介護認定業務の適正化とともに、適切なサービス利用の促進や、介護保険サービスを利用しやすい環境の整備、住民に対する介護保険サービスの周知・広報の充実に努める必要がある。	医療情報との突合・縦覧点検	縦覧点検（回） R3：12 R4：12 R5：12 医療情報との突合（回） R3：12 R4：12 R5：12 （取組の内容） 提供されたサービス内容の誤りや医療と介護の重複請求を排除するため、国民健康保険団体連合会への委託により医療情報との突合・縦覧点検を実施する。	縦覧点検（回） R3：12 R4：12 R5：12 医療情報との突合（回） R3：4 R4：12 R5：12 （取組の内容） 縦覧点検は国保連合会に委託し、毎月1回実施した。医療情報との突合は毎月及び3ヶ月に1回国保連合会から提供されるリストをもとに事業所に確認し、必要に応じて過誤申立を行った。	◎	（課 題） 医療情報との突合では、一定程度の請求誤りがある。 （解決策） 事業所への啓発を行う。
②給付適正化	認定率について、町の「調整済み認定率」で見ると、全国と比べて、中・重度者（要介護3～要介護5）で低く、軽度者（要支援1～要介護2）で高くなっている。また、全国や県と比べて、高齢独居世帯や高齢夫婦世帯の割合は高く、介護保険サービスの利用率は低くなっている。特に軽度者では、利用率が低くなる傾向にあるため、要介護認定業務の適正化とともに、適切なサービス利用の促進や、介護保険サービスを利用しやすい環境の整備、住民に対する介護保険サービスの周知・広報の充実に努める必要がある。	介護給付費通知	介護給付費通知の通知率（％） R3：100 R4：100 R5：100 ※通知者数÷対象者数 （取組の内容） 定期的に全受給者に対して介護給付費通知を送付し、利用者が自らのサービス利用状況を確認することで、事業者からの不適切・不正な給付を抑制するとともに、利用者や事業者に対して適切なサービス利用を啓発する	介護給付費通知の通知率（％） R3：100 R4：100 R5：100 介護給付費通知をR5.6月にR4後期分（R4.10～R5.3月分）を1,049人、12月にR5前期分（R5.4～R5.9月分）1,054人に対し、送付した。	◎	※令和6年度制度改正に伴い、本町では廃止する。